すきとおった銀の髪
とばりの影には
永遠の美
永遠の命

ぼくは
十四
毎日
勉強
勉強の相手は
おかたい
家庭教師
家庭教師は
午後に
へたくそな
ソナタが
聞こえてくると
ソワソワしだす
ソナタを
ひいてるのは
アンナ姉さん
あは
えへん
チャールズ
ここ読んで
おくように
いいね
SOSITE WATASI WA TOTEMO SAMISII
IE HE KAEROU
IE HE KAEROU
姉さんは
十七
美しい
美しいのは
……春!
そして午後は
自由
ぼくは
草笛を吹き
走り
大声をあげ
でたらめの
歌をうたい
…歌?
歌…!
…の髪の
少女が昔…
いました…

…恋はたしかに
少女のふくらみかけた
胸の奥に
ひそんでいて…
呼びかけて
くる……どんな
風や音楽の
ことばより
やさしく
いつきたの
？
……この家
長いこと
あき家だった
んだよ
おとといよ
あたし
メリーベル
ぼくは
チャールズ
十四だよ
ふうん
うちの
エドガー
兄さんと
同じ年ね

荒れた庭のバラの中
とぎれとぎれの会話
ほおをそめ胸をあつくして…
町はずれの古い屋敷に先日こしてきた一家ごぞんじ?
ポーツネル卿ですって……へんくつらしいわ
あいさつはおざなり女中ひとりおいてないそうですって
貧乏貴族だろう
でもあの子はギリシア風のきれいな服を着てたよ
かげろうが風のように見えたよ
チャールズ勉強はちゃんとしてるね
はい父さま
コホン!
エッ
ところが翌日は午後になっても
姉さんのへたなピアノが聞こえてこない
いらいらいらいら

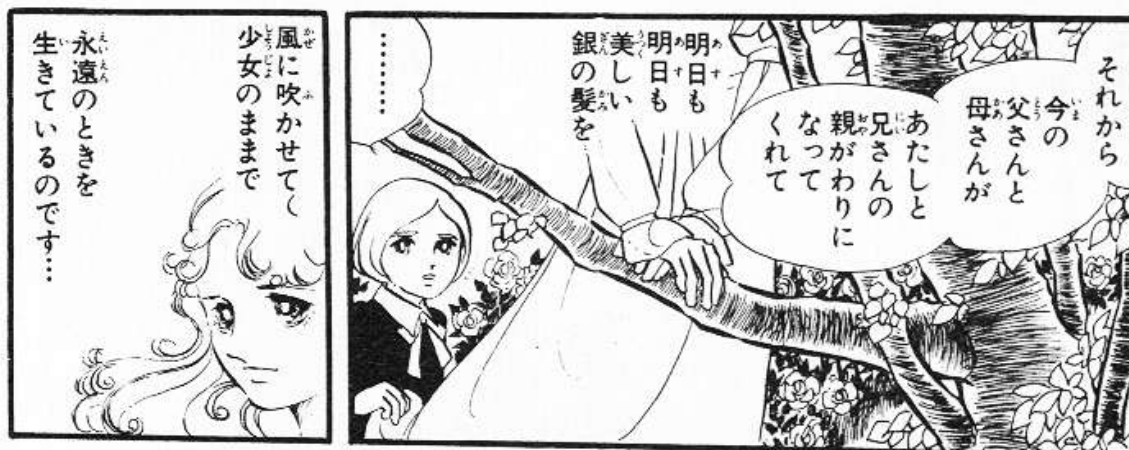
ガタ！
ははあ
姉さんと
なにかあったな
まあ　ともあれ
ぼくも脱出…
バタン！
メリーベル
きみのこと
話してよ
メリーベル
なあに？
聞きたいんだ
きみの…たとえば
小さなころの
こととかさ
小さいころ？
だって……
忘れちゃった
ずいぶんと
昔だもの
あなたは？
……
ぼく？
ぼくは生まれた
ときから…
この町に住んでて
…姉さんがいて
一年中で
いちばん
春が好きで
…今は
世界中で
いちばん…
…きみが
好きで…！
お待ちよ！
キャア
アハハハ…
メリーベルー！

知ってるくせに
知ってるくせに
きゃっ
あっ
わ
春には
少女が
どれほど
あまいか
目が
笑って
キスを
誘うか
メリーベル!
…だれっ
夕風は
からだに
悪い
家へ
おはいり
呼んだ?
なあに
どうかして?
エドガー
兄さんよ
兄さん…
あれが…

きみ…また　明日ね……
また明日ね……あれでぼくとおなじ年だって
百も年上みたいに…ぼくを見つめて…つめたい目…青い……
チャールズ…もっと早く帰ってらっしゃい
心配するじゃないの
坊っちゃん町はずれの屋敷の女の子と遊んでるんですって？
おまえの口だすことじゃないよよけいなこと母さまにいったらしょうちしないから
でもね！へんな家ですよ…窓がひとつもあいてないんですよ
悪いことでもしてるみたい…家中しーんとして
ああ聞きました？だれかが道を歩いてきた話…！
道ぐらいだれでも歩くよ
真夜中ですよ！
神父さまが窓から見たんですって
すごく背が高いマントを着た人が…
すくなくともこの町の人じゃない人が…

町はずれの屋敷のほうへ歩いていったんですって
それだけ?いいじゃない!
わかってないんですね!それだけだから…
こわいんじゃありませんか!
きみの兄さんずっとあそこにいる
気になる?
やだな
じゃ見えないとこにかくれちゃえばいいわ
こっちよ
………

…ねえ　なぜ窓をあけないの暗いだろうに
病人でもいるみたいだ
ひとつところにいつも長くいないの
いつも旅行してるから
この町にもそういつまでもいないわ
…メリーベル！
いいのよ家を町を愛したりしないの
わたしたち
父さまと母さまと兄さんとわたし
じゃ　いつか…どこかへいっちゃうの？
いつかね
いっちゃいやだ！いやだ——いかないで！きみが好きだもの！
…すきとおった銀の髪の少女がいました
そのあまりの美しさに…

そのあまりの美しさに神は少女のときをとめました
…ときをとめました…
…それ初めにあったとき歌ってたね
ああこの歌はねずいぶん昔老ハンナおばあさんが歌ってたのよ
ねぎわにね小さかったあたしと兄さんのまくらべで子もり歌がわりに
歌ってくれたの
…それで少女は…明日も
おばあさんが………なくなって…
それから今の父さんと母さんが
あたしと兄さんの親がわりになってくれて
明日も明日も美しい銀の髪を…
………
風に吹かせて少女のままで永遠のときを生きているのです…
…その歌教えてよ
……すきとおった銀の髪の……

メリーベル！
メリーベル！
きみ　いっちゃうの……
仲よくしてくれてありがとうチャールズ
ぼくは…だってメリーベル…きみのこと好きだから…
メリーベルおいで
…さようなら
ぼくはそのとき初めてメリーベルの一家を見た
このきょうだいをひきとったという美しい婦人と…背の高い紳士と……
春がおわらないうちに…
そうしてメリーベルはいってしまった

その翌朝だったか
翌よく朝だったか
キャーッ
な なんなの
なにが
あったの…
おお
アンナ アンナ
アンナ
しっ
坊っちゃま
こちらへ
姉さんと
家庭教師が
夜のうちに
かけおち
した!?
あの
まぬけづらの
家庭教師が
そんな
ことを!
それで
ぼくは
なぜ
あのとき
……
メリーベルを
さらって
逃げるほど
機転が
きかなかった
のかと
長いこと
──後悔
してた
いってしまった
初恋は
とまった時間だ
思い出の中で
少女は成長しない
でも
ぼくの時間は
たしかにさらさら
流れつづけ…
年月を
きざみ
いって
らっしゃいませ
お帰りは
早く帰る
銀婚式
だからね
三十年が
すぎ去り
…

結婚二十五年め
では花でも買って帰ろう
春バラがいいかなサンザシがいいかな
…失礼お嬢さん……
え？はい？

ああ
あなたは
きっとあの人の
娘さんに
ちがいない
あなたのお母さまは
メリーベルと
おっしゃるのでしょう?
…さあ
わかりません
メリーベルは
わたしよ
わたし…
生んでくれた
お母さんのことは
なにも知らないの
ではあの人は
娘におなじ名を
つけられたん
ですね
…あなたの
お母さまを
知ってますよ
あのころ
わたしはまだ
少年で
おや
笑ってますね
こんなおじさんが
初恋を話すのは
おかしい
ですか?
いいえ…
すこしも
ずいぶん古い
お話なのね
ええ もう
三十年も昔の…
あなたは…少女だった
小さなお母さんに
うりふたつだ わたしは…
そう…歌を
教わってね
こんな…
すきとおった
銀の髪の……
あら…
知ってるわ
昔
少女が
いいました

…知ってる？
でもだれに
教わって？
そのあまりの
美しさに神は…
あら
エドガー
兄さんが
呼んでるわ
馬車がきたんです
いかなけりゃ
メリーベル
おいで
少女の
時間を
とめました…
さようなら
メリー…
それで
少女は
明日も
明日も
銀色の髪を…
風に吹かせて
少女のままで……

青い
霧とたそがれの中に住み
永遠のときを
生きる一族……